



from Brussels

ベルギー釣り日誌

私のベルギーでの生活の一部を日誌風にご紹介します。

【5月某日／晴れのち雨のち曇り】

南部のワロン地方スモア渓谷でマス釣りをしました。釣り人が少ないせいか、腕が良いせいか、たくさん釣れました。ベルギーではニジマスよりブラウントラウト(注1)が主流のはずなのに、釣れるのはなぜかニジマスばかり。通りすがりのおじいさんに聞くと、近くにニジマスの養殖施設があり、時々放流しているとのこと。少なくとも腕が良いわけではなかったのか、と少しがっかりしました。

バター焼きにしたマスは、空気中の天然酵母を取り込んで醸すランビックビール(注2)によく合います。むしろビールの方が天然物。そういえば、ベルギーではもうじき総選挙。義務投票制を採用しているこの国では、国民の多くがいやでも応でも国の行く末に大きな関心を寄せています。



イヴォワール近郊にて。政治は滞っていても、川は流れ続けます。



ランビックビールは少し原始的な酸味が魅力です。

【6月某日／曇りのち晴れのち雨】

ここ最近忙しかった仕事が一段落。今度は同じワロン地方でもオルヴァル村でマス釣りをしました。今にも大物がかかりそうなポイントが山ほどあるのに、この日はアタリが全くありませんでした。やはり私は釣りが下手なのでしょう。

仕方がないので、近くの修道院で買ったトラピストビール(注3)を楽しみました。アルコール度数が高いためすぐに酔いましたが、その分飲む量は控えめにできて、アウトドアにぴったり。先日の総選挙では、文化や経済力が異なる北と南の分断が一層明らかになった、と盛んに報道されていました。サッカーであれば、北・南の別なく国民が結束できるので、サッカーの国際試合を頻繁にやったらいいのに……と後悔してしまいます。

【10月某日／雨のち曇りのち晴れ】

今日は、北部のフランダース地方ゲント市近郊でコイ釣りをしました。ほとんど座りっぱなしのため、地元のとてもおいしいウイスキーをじっくり飲みました。ベルギー人でも国産ウイスキーの存在を知る人は少ないので、積極的に周りの人にお裾分け。「日本のウイスキーに比べたら大したことないって内心思ってるでしょ？」と勘繰られたように感じました。やはり欧州の小国で生き抜いてきた人たちは用心深い気がします。5月の総選挙の結果、組閣協議が難航して政治空白が続いていますが、それでもこの国の人たちは何とかやっていくのだと思います。

(国際金融情報センター、ブラッセル)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。

(注1) ブラウントラウト／ヨーロッパ原産のサケ科の淡水魚。

(注2) ランビックビール／ブラッセル近郊等でしか造られないベルギービール的一种。野生酵母を使い、強い酸味が特徴。

(注3) トラピストビール／カトリック修道会の一つトラピスト会の修道院で独自に造られるビール。